

慶応元年九月十日より慶応元年九月十二日まで

P8311315 right

案内出迎として蒸気車会所へ行く、達作源三名も右に同行す、知己の人には尤も可有し

其□は何等の意ぞ、漫興、葉書満几邊最是好因縁屋凌□泉響

窓前蘿月懸更深時□鬼心静欲参禅心情淡□水詩思更爽然

十一日酉 晴乍雨、午前より又晴烈風

澤太郎、橋本(釜)同行来り濱五郎議の上合薬製器械の義に付縷々申聞る、御買上げ代凡

(建白条太郎左衛門談来し)壹萬弍千ドルラル弱相懸り可申趣、右代金は御用意金の内より経站

相調、御買上げ方は預けて太郎へ

委託す何れ同人より巨細図取調、猶代料の義も申越積り、尤当人議掌守務故右器械

取立方の義を勤事心得帰国の約也、瑣末の節目は楽太に引合為及候、過日対食し

謝としてへラルト来る、不面、濱並橋本(釜)は此談および御買上器械見分の義に付、猶また

P8311315 left

□儀に出行けり、右兩人共本第九時過ぎ帰り橋本(釜)は泊宿す、商社約書(コンタクト)の内に
文意

要幹を缺ける(*1)義有し、いまだ商議頼正頓せざる趣也、澤(太郎)夕餐後帰る、楽達三右帰りへ

同道出行す、外国ミニストル、ロアンデリスより御在医の義、返翰差越す、客懐、秋霜如雪

満簷□客子此時何限情 孤影常随燈一穗 重衾易冷夜三更

樽無餘瀝愁難遣 夢入故山眠屡驚 空帳低□群動息 唯聞□□

走椽鳴、寄内、重任難勝計易違身愁絶減衣困寄言郷里

将謀隠買□青山待我帰

十二日戌 晴烈風午後陰雨意

此本の談句を結候趣にて濱早朝より出行く午後比は帰舎の積り也、(ウェルニー紹介)御国迄の

飛脚船社長

*1: 缺(か)ける、必要なモノが抜けていること

()内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れあり、虫食いにより文字が無い等です。